

さいたまトリエンナーレ2016

SMF学校

9月24日(土)～12月11日(日) 市民会館おおみや 旧地下食堂スペース



SMFはさいたま市で2016年に行われた国際芸術祭「さいたまトリエンナーレ2016」に参加し、ユニークなアートプロジェクト「SMF学校」を展開しました。

SMF学校は「わくわくするとくいわざ、創造力の学校」をテーマに、9月24日～12月11日の79日間、30組のアーティストが、ユニークなプログラムを実施しました。さまざまな表現方法を持つ参加アーティストと、これまでのSMFのネットワークを活かし、会期中の金・土・日を中心に「生活都市さいたま」を生かしたプログラム(ワークショップ、レクチャー、シンポジウム)を開催し、多くの参加者の方と創造的な時間をつくりました。

主なSMF学校のプログラム構成は、「授業プログラム」・「部活プログラム」・「展示プログラム」の3つを主軸としました。その中で、授業プログラムは5つのテーマ(都市計画と建築・コラボレーション・パフォーマンス・都市とアート・映像とデザイン)を設けて、「生活都市さいたま」の魅力や課題、新たな価値を発見し模索できるよう、複数の参加アーティストが連携しプログラムの内容を深めて行きました。

部活プログラムは、参加アーティストの表現方法や制作のこだわりや思考、日々の活動など、じっくりと時間をかけてその人自身を知ることが出来るアーティストとの距離感が近いプログラムを展開しました。

展示プログラムは、2名のアーティスト(小野養豚さん、西尾路子さん)が、元厨房だったスペースを生かした作品を展示。(来場者:計6,811名)さらに授業プログラムと連動したワークショップを行いました。次に、実施する曜日によってプログラムの実施環境が大きく異なる事が予想されたため、曜日に合わせたプログラムを考えました。

◎金曜日は「みる！ハナ金とくいわざ授業」と題し、19:00～20:30の時間を設定。ベッタウンならではの、都心で仕事をしているサラリーマン・OLさんを対象にした授業プログラムを展開。

◎土曜日は「つくる！とくいわざアクション」と題し、主に10:30～16:30の時間を設定。アーティストと直接関わり、作品制作の時間を通して、自分から生まれるアイデアを楽しめるワークショップやパフォーマンスなど体験型授業プログラムを主に展開。

◎日曜日はかながえる！「とくいわざ」授業と題し、主に10:30～16:30の

時間を設定。アーティストの一般的な雑学から時にはマニアックな話も織り交ぜながらつくられた「とくいわざ」のプログラムをじっくり味わい、自分なりに考えることができる授業プログラムを展開。

SMF学校のプログラムを通して、さいたま市民を中心に1764名の参加がありました。アートに日常的に関わっている人だけでなく、アートに普段関わることの少ない方の参加者が多数現れ、プログラムのリピーターとなったことも印象的でした。

参加者の声は、

- ・「普通の主婦が受けることができないような専門家の講義が興味深かったです。建築とアートがどのようにつながるのか根本的なことの授業で人間の本能やイマジネーションを見ることができました。ものを見る目が変わりそうです。」
- ・「街中で身ひとつでパフォーマンスをする事で街の空気を変えているのが面白かった」
- ・「街中で面白い音や好きな音を探すのが楽しく、それを素材に組み合わせる体験は面白かった。日常の音に改めて注目したいと思います」
- ・「制作した作品を街のどこに置かかで街の見方が変わる体験が興味深かった。自分のつくった作品に他の参加者から自分が考えていなかった見方をしてもらえた時、とても嬉しく感じました。」
- ・「アートとの距離感にグラデーションがある人たちが集まっていることが面白い。日本で国際展が行われてきたことの意味を感じた。」
- ・「アートを身近にするSMFのプログラムに生活都市で芸術祭を継続していくヒントがあるように感じた。」

生活都市を舞台にアーティストが提案するプログラムは、参加者とともに「日常」に対して改めて「注目・発見・構成・批評・提案」を生み出すものとなりました。

さいたまトリエンナーレ2016を通してSMFのこれまでの活動を生かし発展することができる機会を得ることができました。トリエンナーレを通して、新たに生まれた、人やアイデアとの出会いが次にどのような形になっていくのか、継続していくことで見出していきたいと考えています。

浅見俊哉(協力委員)

SMF学校シラバス

●金曜日一みる！ハナ金「とくいわざ」授業－
(19:00～20:30)

金曜日は、都心で仕事をしているサラリーマン・OLさんを対象にした授業プログラムを展開。普段ゆっくり物事について考える時間がない、自分とは違った分野の面白い視点を得たいという方が対象の時間です。

●土曜日一つくる！「とくいわざ」アクション－
(10:30～16:30)

土曜日は、生活都市さいたまをモチーフにしたワークショップやパフォーマンスなど体験型授業プログラムを展開。アーティストと直接関わり、作品制作を通して、自分から生まれるアイデアを楽しんだり、まちの魅力を再発見したりする時間です。

●日曜日一かながえる！「とくいわざ」授業－
(10:30～16:30)

日曜日は、アーティストの「とくいわざ」をじっくり味わい、自分なりに考えることができる授業プログラムを展開。得意なことを伝える人が生き生きとし、話を聞く人までワクワクする授業を実施します。

期日	曜日	タイトル	概要	講師	参加者・来場者数
----	----	------	----	----	----------

開校日 SMF学校の開校を祝うセレモニーを行います。

9月24・25日	土・日	A.洗濯バサミで絵を描こう B.お顔をトレース★肖像画	自由参加の2種のオープンWS (24日 開校式参加:20名、トンちゃんバレード:28名)	矢花俊樹／協力:MO MASサポートスタッフ	A.計349名 B.計79名
----------	-----	--------------------------------	---	---------------------------	-------------------

都市計画と建築 生活都市さいたまを建築の視点で読み解きまちの魅力を再発見するプログラム。

9月25日	日	生活都市さいたまの魅力 ーまちとけんちくの視点から(鼎談)	建築と都市計画をめぐる鼎談	青山恭之、三浦清史、 渡辺範久	45名
10月7日	金	けんちくのうんちく	建築について語る夜(対談)	青山恭之、三浦清史	23名

コラボレーション 様々な表現者がその「とくいわざ」を持ち寄って新たな表現を展開するプログラム。

10月8日	土	TIME TUBE ー建築とインスタレーションー	別所沼公園内ヒアシンスハウス前庭での 出前授業(レク・展示・WS)	三浦清史、SeeSew 協力:JIA埼玉	200名
10月9日	日	彫刻ができるまで	彫刻家による制作の実演、ダンサーを モデルに創造の瞬間をウオッチする。	石上城行	53名
10月21日	金	写真・衣装・身体「時間のきものプロジェクト」	「時間のきもの2015」をめぐるアーティストトーク	SeeSew(浅見俊哉、 田村香織)	19名
10月22日	土	A.都市の化石づくり B.石の彫刻体験	A.都市で集めたモノの記憶をかたちにする B.石を磨いて都市空間に置く体験	A.大場さやか B.石上城行	A.11名 B.16名
10月23日	日	A.日本のテレビアニメの変遷について B.アニメーション表現が伝える日常と非日常	テレビアニメ50年、各時代を象徴する作品を 語りその可能性を探る。	A.石上城行 B.小宮貴史	A.26名 B.22名

パフォーマンス 人々が行き交う都市空間を舞台に、予測不能な時間をつくりだすプログラム。

11月4日	金	パフォーマンスって何だ？	3人の個性的なパフォーマーの表現を通して、 パフォーマンス表現の魅力に迫る。	奥平 聡、野口竜平、 野本翔平	17名
11月5日	土	パフォーマンス in さいたま	3人の個性的なパフォーマーがさいたまの 都市空間に身体を通して働きかける。	奥平 聡、野口竜平、 野本翔平	119名
11月6日	日	都市の音・まちの音	3人の音楽家を講師に、音の視点から 生活都市さいたまを読み解く。	大澤加寿彦、 柴山拓郎、林 文彦	33名

都市とアート 「都市空間と表現」の関係に様々な表現方法でアプローチするプログラム。

11月18日	金	ヒトを取り囲む「音・音楽・音響」	環境音をテーマに制作する3人の 音楽家がヒトを取り囲む「音」を語り合う。	柴山拓郎、林 文彦、 松本一哉	19名
11月19日	土	A.卵で起き上がりこぶしを作ろう！ B.ヒカルキノコを作ろう！	A.「たまご から から」展開連WS B.ファイバーで旅するキノコを編むWS	A.西尾路子 B.井上 唯	A.13名 B.17名
11月20日	日	これを受ければ 「ダンスは一日にして…成る?」	コンテンポラリーダンスの体験WS、 授業の最後に発表会を行う。	愛智伸江、 カワムラアツリ、藤井 香	32名

映像とデザイン 映像やデザインの持つ「伝える力」を都市空間で考えるプログラム。

12月2日	金	デザインのキモとは？	2人のデザイナーのそれぞれの視点から デザインのキモを語り合う。	鈴木健太、中村 隆	22名
12月3日	土	まちを舞台にスマホで動画制作 ー新しい見方がまちを変えるー	スマホで動画作りのノウハウを知り、 さいたま市の魅力再発見をめざす。	浅沼 奨	22名
12月4日	日	写真とデザイナー私新聞をつくらう！ー	写真とデザインの関係を考え、素材を 生かして自分を伝える「私新聞」を制作	浅見俊哉、中村 隆	18名

部活 SMF学校の趣旨に合った様々なアーティストが独自のプログラムを展開します。

10月1日	土	サンドイッチアートマン in さいたま	「ブラカード型のギャラリー」を掲げ、 様々な都市空間でアクションを行う。	浅見俊哉と サンドイッチアートマンズ	6名
10月2日	日	アートプロジェクトって何？	アートプロジェクトの現況の概説と ケーススタディとしてのSMF分析	熊谷 薫	32名
10月11日～16日	火～日	OPEN CLOSET ＊11日(火)より連日10:00～16:00開催	クローゼットには大量の素材が眠っている。それらと 衣服が抱え込んでいる物語をオープンにし紡いだり つくりかえたりして、衣服が循環する場所をつくりだす。	田村香織	計184名
10月29日	土	A.「会社まるごとギャラリー」について B.みんなで挑戦！ドラムペインティング	A.ユニークな展覧会企画を紹介 B.ドラムペインティングをまちに展開	A.田中清隆 B.三友周太	A.5名 B.71名
10月30日	日	影をつかまえるー生活都市のフォトグラムー	生活都市さいたまをフィールドワークし、 フォトグラムの制作に挑戦	浅見俊哉	12名
11月12日	土	遠足:フナノ現場展・野焼き見学会	巨大積みわらフナノの完成記念イベントや TANBOプロジェクト現場展を見学	SMFメンバー、 協力アーティスト	50名
11月13日	日	遠足:北浦とおかわり芸術祭見学	北浦とおかわり芸術祭(花咲かアート、 回遊美術館、おなかの旅など)を見学	SMFメンバー、 協力アーティスト	60名
12月10日	土	サンドイッチアートマン in さいたま	サンドイッチアートマン in さいたま 最後の出撃とフィードバックの報告会	浅見俊哉と サンドイッチアートマンズ	25名

展示 SMF学校開校中、2人のアーティストが「食」をテーマに作品展を開催します。

9月24日～ 11月6日	土	小野養豚ん 食堂展	厨房空間を生かした作品展示	小野養豚ん	3,463名
11月10日～ 12月11日	木	たまご から から 西尾路子展	厨房空間を生かした作品展示	西尾路子	3,348名

閉校日 SMF学校の閉校に伴い、修了証の授与式などを行います。

12月11日	日	修了式(修了証授与他) 5コマ以上の参加者へ修了証を授与			71名
--------	---	---------------------------------	--	--	-----

